



作成：寒川小学校

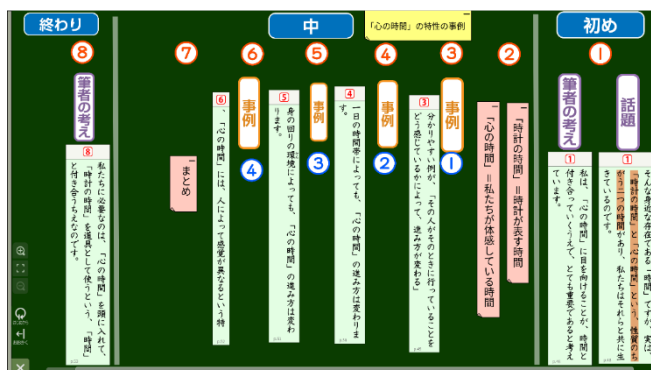
「読む力」を身に付けるためのICTの活用

【内容】第6学年国語科「時計の時間と心の時間」

【使用アプリ】ロイロノート、デジタル教科書

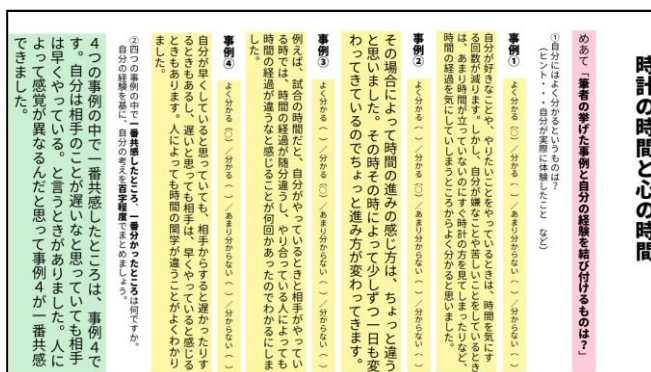
【事例紹介】

＜デジタル教科書マイ黒板＞



説明文「時計の時間と心の時間」において筆者の主張と事例の関係について、マイ黒板を使ってまとめる活動を行った。デジタル教科書の本文抜き出し機能を使うことで、ノートに表を書いてまとめるよりも短い時間で文章の関係を整理できる。また、個別作業が短くなる分、ペアでの対話時間を長く取ることができるので、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

＜ロイロノート＞



その後、筆者が挙げた事例について、自分の経験や知識をグループで話し合う活動を行った。グループで話し合ったことをもとに、どの事例が自分の経験と重なり納得できるものであったかをロイロノートでまとめることで、説明文における事例の大切さを感じ、筆者の意図をしっかりと読み取ることができた。

【終わりに】

ICTを活用することで、説明文の構造を見やすくまとめることができるようになり、考えを深めるための話し合いや対話の時間を確保することができるようになった。高学年になると文章の内容が難しくなり国語科の学習において「楽しさ」を感じる事が難しくなり、国語科に対する苦手意識を持つ児童が増えてくる。だからこそ、ICTを効果的に活用することで、学習意欲を高め、より分かりやすい授業づくりを進めていきたい。



☆教育委員会指導主事より☆

今回は、ペアでの対話時間を長く取り、自分の考えを広げたり深めたりするためにICTを活用した事例の紹介でした。夏季ICT研修会の事例発表の中にもありましたが、授業の中では児童生徒に身に付けさせたい力をしっかりと定め、ねらいを持ったICT活用を進めていくことが大切です。適切な活用がされると、その後の話し合いや対話の時間確保だけでなく、対話の内容にも変化が出てくることと思います。また、このような取組を続けていくことで、まとめる方法を児童生徒自身が選択できるようになっていくのではないのでしょうか。